

ヤクシマシャクナゲに対する電照，施肥に関する研究

国 重 正 昭・内 関 正 昭

(野菜試験場久留米支場・鹿児島県屋久島普及所)

KUNISHIGE, M. and UCHIZONO, M.

Studies on Artificial lighting and Fertilization for Rhododendron Yakusimanum

シャクナゲは，秋の短日により出葉が停止し，生育がとまる。これを周年出葉させ，生育の増大をはかるため，電照による長日処理の効果と肥料の種類による施肥効果を検討することを目的に本試験を行なった。

〔実験Ⅰ〕電照処理

供試苗は1972年12月16日播種，1973年10月4日3号鉢に鉢上げしたヤクシマシャクナゲを用い，1973年10月22日から1974年2月28日まで1.3m²当り100W電球で17時から22時まで点灯，対照区は自然短日条件として両区とも温室内で栽培した。その結果は第1表のとおりで電照によって出葉数増加の効果は十分みられた。

第1表 電照効果 (1区5連平均)

	処理前葉数	処理後の葉数	期間内の増加葉数
電照処理区	9.3枚	17.7枚	8.4枚
無処理区	9.8	9.8	0

〔実験Ⅱ〕肥料の種類と効果

供試苗は1972年12月播種，1973年10月4日に3号鉢に鉢上げした(用土はピートモスに等量のパーミキュライトを混用)ヤクシマシャクナゲを用い，1973年10月22日から1974年2月28日まで17時から22時まで100W電球を1.3m²当たり1灯を照明し温室内で栽培した。

供試肥料は，住友液肥1号，尿素，硫酸，硝酸カルシウム，ハイポネックスを用い濃度は窒素成分で100

ppmとし12月14日，24日，1月9日，24日，2月8日，23日の6回，1回に1鉢当たり20ccを施用し，新葉の出葉数，出葉回数，新葉の発生時期別葉長葉幅を調査した。

結果と考察

出葉回数は第2表のとおりハイポネックス区を除いたほかは種類間の差異はなかった。新葉の出葉数については第2表のように，施肥区において全区無肥料区より多く，特に尿素区，住友液肥区がいちじるしく多く，他は種類間で大差はなかった。

新葉の発生時期別葉長葉幅の変化は第3表のとおりで，個体差がありバラツキが多いようであるが，総体的に施肥区が無肥料区に比べて伸び率が良かった。

以上のようにヤクシマシャクナゲに対する施肥，電照効果については一定の傾向が得られたが今後はコスト関係，処理時期，施肥量，濃度などについて検討を要する。

第2表 出葉回数，葉数の変化 (1区5連平均)

区名	調査項目	処理前	期間中	期間中	無肥料	総着
		葉数	の出葉回数	の出葉数	に対する出葉率	
住友液肥1号		11.2枚	4回	8.4枚	144.8%	19.6枚
尿素		10.0	4	8.6	148.3	18.6
硫酸		11.6	4	7.4	127.6	19.0
硝酸カルシウム		11.4	4	6.6	113.8	18.0
ハイポネックス		11.0	3	6.6	113.8	17.6
無肥料		10.0	4	5.8	100.0	15.8

第3表 新生葉の葉長，葉巾の変化 (1974年3月8日現在)

	(1) 12月発生葉				(2) 1月発生葉				(3) 2月発生葉			
	展葉期		1974.3.8		展葉期		1974.3.8		展葉期		1974.3.8	
	葉長	葉巾	葉長	葉巾	葉長	葉巾	葉長	葉巾	葉長	葉巾	葉長	葉巾
住友液肥1号	3.0 cm	1.2 cm	3.8 cm	1.4 cm	3.1 cm	1.0 cm	4.8 cm	1.7 cm	1.8 cm	0.2 cm	2.9 cm	0.8 cm
尿素	2.6	1.0	3.2	1.2	2.5	1.0	3.1	1.1	2.7	0.8	4.3	1.8
硫酸	3.1	1.2	4.3	1.6	2.6	0.9	3.2	1.1	2.8	0.9	3.9	1.3
硫酸カルシウム	2.7	1.2	3.1	1.3	1.8	0.7	1.8	1.3	2.0	0.7	3.5	1.3
ハイポネックス	2.8	1.1	3.0	1.2	2.6	0.9	3.4	1.3	2.8	0.9	3.6	1.1
無肥料	2.8	1.1	3.1	1.2	1.9	0.7	2.0	0.7	2.1	0.7	2.6	0.9